

日本語インターンシップ・プログラム報告書

CAS(タイ)



石井 那奈

峪口 有香子

森 尚子

研修期間：8月17日～9月5日

(3週間)

派遣先：タイ (コンケン)

1. 受入機関の状況

(1) 現地受入大学名：College of Asian Scholars

(2) 日本語教師数：2人

(3) クラス数と日本語学習者数 (下記)

2. 担当した授業の状況 (看護学生との写真)

★看護学生★

(1) 実習をしたクラス数：看護学生 (3クラス)

(2) 生徒数：9人

(3) レベル (日本語能力)：初級レベル

(4) 担当した授業の内容



使用教材：NHKの日本語のDVDと教科書

担当時間数とコマ数：実習時間は7時間、アシスタント時間は5時間

授業前の準備：教案の作成と、授業を部分的に分かりやすくするためのショートコ

ント作り。

(5) 準備・授業・感想

事前にDVDを見て確認をし、教案を作り流れを把握し、教えるポイントを絞り、準備をしました。

今回担当した教育実習は、初級者が主で日本語だけの直接法で授業をするのは大変難しいことでした。説明をするときに日本語だけでは伝わらないときは、英語やタイ語を使用しました。授業前に、色々考えて試行錯誤していても、授業ではまったく思い通りにならないと改めて痛感しました。今回、教育実習を通して学んだことは、授業中の学生一人一人の発言を大事にし、その発言を利用しコミュニケーションを主とした授業展開方法です。生徒がいかに興味を持って日本語を学習していくか、学習意欲をアップさせるかだと思いました。

★英語専攻の日本語クラス★

(1) 実習をしたクラス数：日本語3（1クラス）日本語1（1クラス）

(2) 学生数：（日本語3）36人（日本語1）15人

(3) レベル（日本語能力）：初級レベル

(4) 担当した授業の内容

使用教材：（日本語3）Japanese III（日本語1）Japanese 1

担当時間数とコマ数：（日本語3）アシスタントは2時間

（日本語1）アシスタントは2時間

授業前の準備：特になし

(5) 準備・授業・感想

このクラスはアシスタントをした初めての授業だったので、見学と、学生の隣に座り、一緒に日本語を勉強したり、少し会話したり、学習者が間違っている問題を正しく直したりしました。



★パニチャーコンケンの高校生と短大生★

(高校と短大の集合写真)



(1) 実習をしたクラス数：パニッチャイヤカーンコンケンの高校生（5クラス）と短大生（5クラス）

(2) 生徒数：高校生（29人）短大生（34人）

(3) (レベル（日本語能力）：初級レベル

(4) 担当した授業の内容

使用教材：身近なレアリアとプリントと『みんなの日本語』とキロロの歌詞

担当時間数とコマ数：(高校生) 実習時間は5時間50分 アシスタントは1時間30分 (短大生) 実習時間は4時間40分 アシスタントは3時間30分

授業前の準備：歌詞をタイ語に翻訳や、数字、挨拶など、プリントを見ながら教案の作成。

(5) 準備・授業・感想

・高校

実習を担当したのは、3コマでした。1コマはクラスを半分に分け、折り紙で兜を折ったりカルタをしたりしました。残りの2コマはキロロの「未来へ」をしました。内容は、日本語の歌詞を発音し、タイ語に翻訳し意味を理解してもらった後、CDに合わせて歌を歌うというものです。

授業前の準備では、初級のクラスだったので全て平仮名に打ち直した「未来へ」の歌詞プリントを用意しました。授業に当たって注意したことは、よく使う指示の言葉は、タイ語で出せるように事前に調べておき、タイ語が通じなかった場合を想定してジェスチャーなど教え方の工夫を考えておきました。

実際に授業を行ってみての感想は、初級の生徒に対して「未来へ」の歌詞は難しかったと思いました。また、タイ語に翻訳できない言葉も多数あったため意味を理解してもらうことは困難でした。しかし、生徒たちはプリントの歌詞の上にタイ語で日本語の発音を書き、とりあえず、CDと共に口ずさんでくれました。最終的には、サビは歌えるようになっており、歌を気に入ってくれた生徒もいました。けっして上手な授業ではなかったのですが、クラス内はとても活発でコミュニケーションが取れていて楽しい授業ができたと思います。

・短大

1 コマは折り紙を使って色の名前を勉強し、数字の1～20を教え、「おいくつですか。」というフレーズを提示して、学生一人一人に年齢を尋ねたり、学生同士で年齢を尋ね合うように指示を出したりしました。残りの2コマは、配布済みのプリント冊子を使って、挨拶や簡単な日常会話を教えました。

短大では、クラス内で高校の時に日本語を学習した学生とそうでない学生との学習の進度が違っていたので、それを少しでも緩和するためのアドバイスを担当の先生から頂きました。まだ、平仮名を早く読めない学生のために、例えば、数字の板書の仕方は、

1	いち	2	に	3	さん	4	よん	5	ご・・・
	ichi		ni		san		yon		go

上のように平仮名とローマ字を書くと分かりやすいのです。また、いろんな教え方のアドバイスも頂きました。関連付けて教えるというやり方です。例えば、朝・昼・夜を教えたなら、朝ごはん・昼ごはん・晩ごはん、その次に「わたしは朝ごはんを食べます。」を教えます。このように、文法は後回しにして関連がある言葉を先に教え、まずは簡単な日常会話をできるようにするという事です。

実際に授業を行ってみての感想は、クラスの進捗の問題に関しては、ローマ字を書き加えることによって少し配慮をすれば、クラス全体が理解できることが分かりました。そして、簡単な日常会話から教えることによって学生たちの日本語への興味を引き、日本語で会話できたときの喜びは大変大きいものなのだなどと教えていて実感できました。

★Japan Foundation★

- (1) 実習をしたクラス数：JF（ジャパンファンデーション）（7クラス）
- (2) 生徒数：3人
- (3) レベル（日本語能力）：4級レベル
- (4) 担当した授業の内容

使用教材：身近なレアリアと先生が作成したプリント

担当時間数とコマ数：実習時間は3時間30分 アシスタントは21時間

授業前の準備：大学紹介と日本文化の紹介のための準備

- (5) 準備・授業・感想

JFは、ほとんどアシスタントが多かったのですが、授業の途中で先生が、私たちに時間を下さり、その場で考えて、ジェスチャーを取り入れながら少し工夫をして教えたりしました。初級者だったので、言葉での説明よりも、身振り手振りの説明で分かるように注意しました。また、実習では、大学紹介など、難しい語彙が含まれていたのを教えるときに

細かくして、一つ一つ丁寧に教えることに注意しました。良かった点は、一生懸命、ジェスチャーを入れて教えたときに理解してくれたことです。とても嬉しく感じることができました。悪かった点は、日本人には気にならない文字の細かな間違いに気づいてあげられなかったことです。少しの間違いでも、ひらがななどは正しく書けるように注意してあげられなかったことが残念でした。後半は、それに気をつけ教えることができました。

3. 授業以外の活動：日時：8月21日（10：30～12：00・14：00～15：30）・8月28日（10：30

～12：00）・9月3日（14：00～15：30） 活動内容：タイ語の勉強 実施場所：CAS

日時：8月25日（8：30～12：00）活動内容：バンサー小学校見学 実施場所：バンサー小学校

日時：8月25日（1：00～15：30）活動内容：小学校での子供達に実習で日本語を使って、折り紙を折ったり交流をした。実施場所：バンコン小学校・中学校・幼稚園

日時：8月24日 活動内容：タイの伝統舞踊、お寺（ノンウェーン寺の訪問） 活動場所：CAS、コンケン市内

日時：9月4日 活動内容：タイとラオスの友好橋、メコン川の観光 活動場所：コンケン市内

(メコン川)



(バンサー小学校の教室風景)



4. ★3人の感想★

・研修を通して、得るものはたくさんありました。日本語を学んでいる学校ではないのですが、小学校を訪問したときの、学生の輝いた目は忘れられません。私たちが、折り紙指導したとき、不慣れなタイ語とジェスチャーで「兜」の作り方をしました。生徒を集め輪になり、汗をかきながらしたこと。完成後、みんなで集合写真を撮ったことなど、とても貴重な思い出になりました。生徒一人一人の眼差しに感動をし、とっても有意義な一日でした。

現地に行き、実際の日本語教育現場を体験して、約三週間の研修は、自分の人生観が変わるくらいの経験が出来たと実感しています。このような機会を与えていただきありがとうございました。

(峪口)

・3週間の JIP の研修を通じて、本当に素晴らしい経験ができたと思います。実際に日本語を生の教育現場で教えることができ、本当に得るものがたくさんありましたし、日本語を教えることはとても大変だということもよく分かりました。私たちが教えたのは、初級でしたが、授業中はタイ語が分からない中、ジェスチャーなど体全体を動かして、必死に教えました。とても苦労したことがたくさんありましたが、学生も必死に理解しようとしてくれて一体になれて嬉しかったです。また生徒が理解してくれた時はとても嬉しかったですし、輝く笑顔を見せてくれた時はとても、感動しました。3週間の研修でしたが、とても濃いたくさんの経験ができたことに感謝していますし、また、私たちを指導してくださった江澤先生や、現地のスタッフの方々、CAS の友人にも本当に感謝しています。この濃い素晴らしい経験ができたことに感謝して、これからにつなげていきたいです。ありがとうございました。

(森)

・私は、今回初めて海外実習でタイという国へ行きました。テレビで見るタイしか知らなかったので期待と不安で胸はいっぱいでした。タイ語は全く話せないまま飛行機へ乗り、機内で「こんにちは」、「よろしくお願ひします」、「私の名前は〇〇です」をひたすら覚えしました。

まず、初日の始めは学内を見て回り、午後からは大学の制服を買いに行きました。その後、すぐに制服に着替えて大学へ戻り、講演会に出席しました。講演会が終わると私たち

は学生たちに紹介され、一言自己紹介をしました。そして、学長をはじめとして大学の先生全員に挨拶をして回り、1日目はあっという間に終わりました。

その次の日から4日間は、大学・短大・高校の日本語クラスを見学しました。大学のJapanese1・Japanese3のクラスでは、少人数クラスでしたので学生の間に入らせてもらい授業を見学しました。そのため、学生たちがどんな風にノートを取っているのか、どこが分かりにくいのか、などを隣で見ることができました。

5日目には、実習をやらせて頂きました。前日に実習生3人で教案を考え、授業の中で行う小さな劇を練習しました。実際に授業を行ってみると初めての实習でしたので、授業はなかなか思い通りには進みませんでした。思っていた以上に1項目に時間がかかり、補足説明で考えていた日本の文化について説明することはできませんでした。しかし、2週間目に入ると実習を重ねて行くうちにクラスの雰囲気や進捗がつかめ、教え方のコツを覚えて行きました。

残りの一週間になると、たくさんの学生たちと仲良くなっていました。学生と学外の市場で出会うことがあり、「どのジュースがおいしい？」などと会話をすることもありました。授業中には、簡単なタイ語で指示が出せるようになり、自然と声が大きくなっていました。最後の授業では、クラスの集合写真を撮り、別れを惜しみました。

授業以外の活動もたくさんありました。CASの学生からタイの伝統的なダンスを教してもらいました。教えてもらう中で踊りの手の形に意味があることを学びました。踊りは難しかったのですが、タイの文化に触れることができ良かったと思いました。全ての実習が終わってから、担当の先生の計らいでラオスとの国境に近いノンカイ市に連れて行って頂きました。そこでは、メコン川を見たり、バラモン教の遺跡を見たり、ラオスとタイの友好橋を渡ったりしました。川の水の色は、赤茶っぽい色で日本とは全く違う自然でした。そして、今まで見たことがない不思議な遺跡にも驚きました。でも、一番印象に残っているのは、友好橋を渡った時のことです。私はふと思いました。日本は島国なので他国と国境を接していない、そう考えると、わたしは友好橋を渡り橋のちょうど半分に着いたとき、ここから向こうはラオスなのだと思ひなかに感動しました。

振り返ってみると3週間はとても充実していたと思います。そして、今回の日本語実習は今まで大学で学んできたことを実践する場として大変役に立ちました。それから、実習に対する反省点やこれからの自分にプラスになることをたくさん吸収できたと思います。実習に行くまでは、日本語教師に自分は向いているのか向いていないのかと悩むことがありましたが、今回の経験が今の自分の支えになり自信にも繋がっている気がします。最後に、お世話になったタイのCAS先生方、このような機会を与えてくださった姫路獨協大学の先生方には大変感謝しております。貴重な経験をありがとうございました。

(石井)

